

芳賀・宇都宮 L R T 事業のシンボルマークについて

1 目的

芳賀・宇都宮 L R T 事業のシンボルマークについては、利用者に分かりやすく視認性の高い案内表示を提供できるよう、文字情報以外でもこの事業を表現・訴求できるデザイン（図柄）について、L R T デザイン部会において検討を行ってきたところであり、その結果を踏まえ、推奨案を選定するもの

〔検討経過〕

平成 30 年 3 月 15 日 第 6 回デザイン部会

- ・ 利用者と事業者の視点から、一目で芳賀・宇都宮の L R T であることが分かるもの、L R T 整備・運行事業者そのものを P R するものなど、マークに求める要素について整理

平成 30 年 8 月 27 日 第 9 回デザイン部会

- ・ マークは、利用者に対して L R T のイメージとトータルデザインコンセプトを浸透させることを基本とするなど、マークの位置づけ等について整理

令和 2 年 2 月 5 日 第 15 回デザイン部会

- ・ マークデザイン等の考え方を踏まえ作成した複数の案から、推奨案を選定

2 シンボルマークについて

(1) 基本となる考え方

- ・ L R T 事業は、都市の骨格形成や拠点づくりに資するとともに、市民・町民の日常生活における多様な移動手段の確保に貢献する鉄軌道事業であり、こうした事業を持続可能な公共交通として将来にわたり維持・存続していくためには、事業主体である宇都宮市・芳賀町（整備事業者）と宇都宮ライトレール株式会社（運行事業者）が緊密な連携のもと、それぞれの役割を果たしながら一体となって事業を推進していくことが必要であると考え。
- ・ こうした考え方のもと、芳賀・宇都宮 L R T 事業のシンボルマークは、この事業に関わる全てのものに共通し、それらをつなぐ存在として作成するものとする。

(2) 役割と位置づけ

シンボルマークは芳賀・宇都宮 L R T 事業そのものを表現し、一目で訴求・周知を図ることができる「象徴」の役割を担う、「事業のマーク」に位置付けるものとする。

(3) 展開

- ・ シンボルマークは「事業のマーク」であるため、事業主体である市・町（整備事業者）と宇都宮ライトレール株式会社（運行事業者）が、この事業の認知度向上や利用者の利便性向上など、それぞれの役割のもとで一体的に使用していくこととする。

（展開例）

- ・ この事業の情報を発信する際のアイコンとして、紙面や W E B 等の様々な媒体で恒常的に使用する。
- ・ 停留場のサイン表示と一体的に掲示するなど、この事業に関連する施設・車両に使用する。
- ・ 自社制服やグッズ販売等に掲示・活用し、L R T 運行に係る組織・関係者であることを明示する。

3 マークのデザインについて

(1) 作成の考え方

シンボルマークのデザイン（図柄）については、遠方からの「視認性」や、混在する情報の中からの「判別性」など、一般的にマークに求められる要素を前提に、次の2点（「象徴性」と「普遍性」）を重視して作成する。

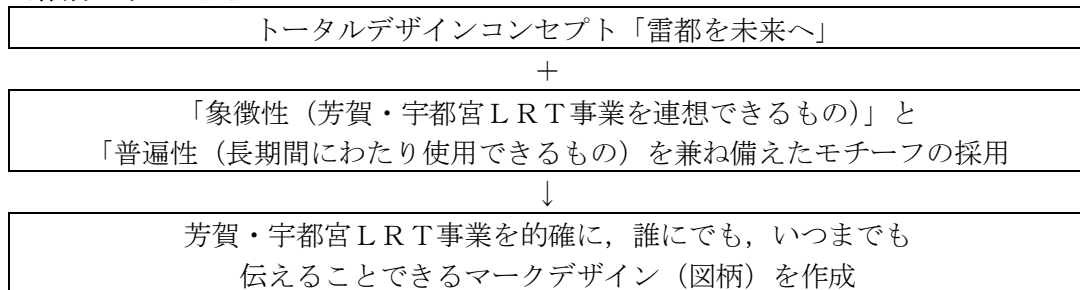
ア) トータルデザインコンセプト「雷都を未来へ」のモチーフである「雷の稲光」とシンボルカラーの「黄色」を用いた芳賀・宇都宮LRT事業を連想できる「象徴性」の高いデザイン 別紙1「トータルデザインについて」参照

イ) 芳賀・宇都宮地域をつなぐ公共交通を表現するものとして、長期間にわたり使用できる永続性を持ち、すたれにくい「普遍性」を備えたデザイン



ア)とイ)の両方を兼ね備えたモチーフによるマークのデザインを作成


<作成のイメージ>



(2) デザイン（図柄）について

別紙2「シンボルマークのデザイン案」参照

- ・ マークデザイン等の考え方を踏まえた3案を作成
- ・ 第15回デザイン部会において、A案を推奨案として選定

デザイン推奨案	考え方
	<p>○「雷都を未来へ」の考え方を直接的に表現したデザイン</p> <p>芳賀・宇都宮地域をつなぐ東西基幹公共交通としてLRTが市民・町民、幅広い利用者から末永く愛されるものとなるよう、この事業のデザインの要である「雷都を未来へ」そのものをモチーフに、その考え方である、まちの顔となる「独自性」や地域固有の風土を感じる「雷の光」、将来イメージを牽引する「先進性」を具現化した図柄として作成</p>
<p>(A案推奨の検討経過)</p> <p>推奨案については、古来、雷が芳賀・宇都宮地域に恵みを与えてきたように、「LRTがこの地に交流や活力といった恵みをもたらす役割を担う」という、「雷都を未来へ」の考え方を直接的に表現したデザインとなっていること、さらには、同じく「雷都を未来へ」を直接的に表現した車両とも高い親和性を持つデザインであり、この事業に関わる全てのものを結びつける上で分かりやすいことから、市民・町民へのスムーズな浸透も期待できるものと考え、推奨案に選定</p>	

(参考) 第15回LRTデザイン部会での主な意見

- ・ 「雷の稲光」のイメージと市民参加を経て選ばれた車両の形を兼ね備えた推奨案は、市民・町民にも一目で芳賀・宇都宮LRTであることを認知していただけるものである。
- ・ 推奨案のデザインは整備事業者だけではなく、運行事業者においても「社章」をはじめとした様々なものに活用できるものと感じた。
- ・ 車両デザインと高い親和性を持つことは、将来、新しい車両デザインが導入された場合において陳腐化するものではない。むしろ、この事業のスタート地点を後世に示すことができるものであり、その点でも推奨案は優れていると考える。
- ・ 図柄に曲線を用いることは人を落ち着かせる効果があると言われており、推奨案はデザインとして際立ったものである。今後、文字表記と組み合わせていくことで安定感も表現できるものとする。
- ・ マークの運用について、背景色や、マークと合わせて示す文字等の組み合わせについて、マニュアル化しておく必要がある。

4 デザイン推奨案について

デザイン部会での選定結果を踏まえ、A案を推奨案とする。

※ 推奨案については、「第26回 芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」における意見を踏まえ、芳賀町・宇都宮市がシンボルマークとして決定

【参考】シンボルマークの展開イメージ等

- ・ シンボルマークの掲出に当たっては、事業等を分かりやすく印象付けるため、事業名称等を表す文字列とマークの一体的な表記を基本としたいと考えている。
(別紙3)「シンボルマークの展開イメージ」参照
- ・ なお、背景色や、マークと合わせて示す文字等の組み合わせについて取りまとめたマークの運用基準については、策定中である。
(別紙4)「シンボルマーク運用基準(案)」参照

トータルデザインについて

1 デザインコンセプトについて

デザインコンセプトは視覚的な統一感を持たせるための色や形を具現化し、デザインを展開していくうえでの基本的な考え方となるものであり、設定するための要素として、芳賀・宇都宮をイメージする「気候・風土」、「地形」、「産業」「歴史・文化」、「名産」等の案を基に検討を行った。



2 デザインコンセプトに求められるもの

デザインコンセプトの検討を行った結果、芳賀・宇都宮 L R T のデザインコンセプトの要素として、

□ 永続性を持ち廃れないものとする『普遍性』

□ 他になく、宇都宮市と芳賀町の固有性を示す『独自性』

□ 多様なデザインに反映できる要素を持つ『展開性』

以上の特性を有する「気候・風土」の象徴である『雷』が最も望ましいとし、「雷」の恵みと同様に、L R T が未来に向けて恵みを与えてくれる役割を担っていくものとしてデザインコンセプトを設定した。

3 トータルデザインコンセプト (デザインの基本的な考え方、基準)

雷都を未来へ

LRTによる
未来のモビリティ都市の創造

芳賀・宇都宮は、豊かな風土を礎に交通の要衝として発展してきました。
日光連山と関東平野の境界という立地と、まちを南北に流れる川や用水は、台地と低地が織りなす地形をつくり、土地を肥沃にし、物流や産業を支えてきたのです。

この風土を象徴するのが、夏の日、夕立を知らせる「雷」です。
「雷」とともに降る雨は、河川を豊かにし、「雷」は稲の実りをもたらす「恵みの象徴」として、人々は「雷」を崇拝し、「雷様」と呼ぶようになりました。
古来、「雷」がこの地に恵みを与えてきたように、
L R T は、人々に利便性や快適性、そして交流、地域に活力や豊かさという恵みを与える役割を担います。
私たちは、このような意志と願いを込めて、雷の都、「雷都」を未来へ繋げます。

4 デザインへの展開

【考え方】

デザイン対象各々の位置づけに応じて、デザインに込めるメッセージや主張の度合いに差を設け、全体としてデザインコンセプトを利用者に明快に伝えることができる表現方法を設定する。

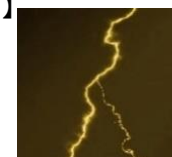
(デザインコンセプトの直接的表現)

シンボリックな存在となる車両、シンボルマーク、サインなど

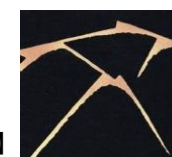
(コンセプトを保ちつつ、地域固有の個性の取り込み)

地域に根付いて存在する停留場やトランジットセンターといった施設

【デザインモチーフ】



【具体的表現】



【抽象的表現】

5 取組別デザイン方針

車両

芳賀・宇都宮の顔となり、「雷都を未来へ」を具現化するデザイン

- ・ まちの顔となる 『独自性』
- ・ 地域固有の風土を感じる 『雷の光』
- ・ 将来イメージを牽引する 『先進性』



【ストラスプール】 【マルセイユ】

施設 (停留場/架線柱)

沿線の歴史と風土を未来へ継承し、沿線住民に愛され、支えられるデザイン

- ・ 安全性、バリアフリー、経済性、維持管理を考慮
- ・ 車両を引き立てる シンプルなデザイン
- ・ 地域の風土を象徴する 大谷石を活用



【富山ライトレール】

サイン

スムーズな交通結節を促し、まちの魅力を伝え、回遊性を高めるデザイン

- ・ 3つの利用者の視点に配慮 「駅誘導系サイン」 「乗车系サイン」 「降车系サイン」



【新潟BRT】

トランジットセンター

風土を活かす景観の形成し、沿線住民の誇りとなるデザイン

- ・ 風土を活かした魅力的な空間創出
- ・ 利活用可能なオープンスペース
- ・ 地域のシンボルとなる施設



【牛久駅前】

シンボルマーク

L R T のイメージを明確に表現するデザイン

- ・ 芳賀・宇都宮 L R T の象徴
- ・ 様々なアイテムに活用できる 汎用性・展開性確保



【新潟BRT】

L R T が将来にわたり、住民に愛され、支えられていく魅力的な公共交通とするため、関心を持ってもらい、「我が事意識」を高める




住民参加

【住民参加取組案】

- ・ 車両デザイン、愛称、ラッピング
- ・ 路線愛称
- ・ 停留場個性化
- ・ ドネーション
- ・ ネーミングライツ

シンボルマークのデザイン案

第15回LRTデザイン部会では事務局の素案として、「象徴性」と「普遍性」が感じられるモチーフをベースに、「雷都を未来へ」のデザインモチーフである「雷の稲光」との整合を図りながら、シンボルカラーである「黄色」を中心に使用して作成した3案をお示しし、「A案」が推奨案とされた。

デザイン (案)	デザイン (案)	考え方	評価
A案		<p>○「雷都を未来へ」の考え方を具現化したデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> 芳賀・宇都宮地域をつなぐ東西基幹公共交通としてLRTが市民・町民、幅広い利用者から末永く愛されるものとなるよう、この事業のデザインの要である「雷都を未来へ」そのものをモチーフに、その考え方である、まちの顔となる「独自性」や地域固有の風土を感じる「雷の光」、将来イメージを牽引する「先進性」を具現化した図柄を作成 	<ul style="list-style-type: none"> 古来、雷が芳賀・宇都宮地域に恵みを与えてきたように、「LRTがこの地に交流や活力といった恵みをもたらす役割を担う」という、「雷都を未来へ」の考え方を直接的に表現したデザインとなっていること、さらには、同じく「雷都を未来へ」を直接的に表現した車両とも高い親和性を持つデザインであり、この事業に関わる全てのものを結びつける上で分かりやすいことから、市民・町民へのスムーズな浸透も期待できるものと考ええる。
B案		<p>○東西方向を走る公共交通LRTをイメージしたデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> 栃木県中央地域の東西方向を拓き、宇都宮市と芳賀町をつなぐ基幹公共交通LRTが走る姿のイメージをモチーフに、「矢じり」という普遍的な記号を左右に2つ配置し、「軌道(レール)」と「雷の稲光」の形にも重なるような図柄を作成 	<ul style="list-style-type: none"> 左右に向けた矢じりにより、LRTが路面電車であることや市・町の東西を走ることを直感的に表現するとともに、「ヒト・モノ・情報の移動」や「交流の活性化」という導入効果を表すことで、特にこの事業に知見を有する人に対して、「将来のまちの姿」を強く訴求できるものと考ええる。
C案		<p>○トータルデザインのモチーフである「雷の稲光」を強調したデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> 芳賀・宇都宮地域を気候や風土を象徴するものであり、誰もがイメージしやすい「雷の稲光」の形状をモチーフに、シンボルカラーの「黄色」の色彩パターンを工夫して立体感を持たせて、その存在感をさらに強調した図柄を作成 	<ul style="list-style-type: none"> この地域の普遍的な事象として「雷都を未来へ」の着想の基となり、デザインモチーフにも位置づけられた「雷の稲光」をさらに強調した図柄は、この事業に関わるデザインとして直接的で理解しやすいものであるが、広く一般的な形状は他に類似するデザインも多く、「芳賀・宇都宮LRT事業の象徴」として認知を得るには一定の時間を要するものと考ええる。

シンボルマークの展開イメージ

停留場

【停留場へのシンボルマーク掲出の考え方】

- ・基本的な表示方法は、シンボルマークの運用基準（現在作成中）に基づく。
- ・停留場の表示位置については、遠方からの視認性が確保できる停留場上部に、各方向から確認できるよう正面、背面、側面の計4面にそれぞれ表示する。



相対式停留場（背面）



相対式停留場（側面）



停留場のイメージ（相対式停留場）

【備考】施設デザインの詳細な仕様は、整備を進める中で変更となる場合があります。

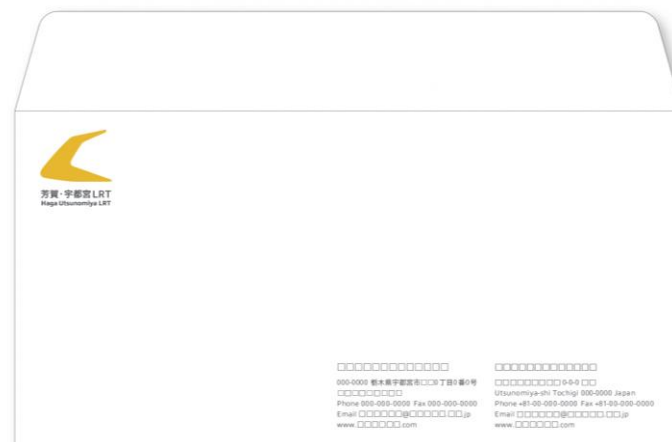
車両

【車両へのシンボルマーク掲出の考え方】

- ・表示位置については、乗車利用者に見えやすい出入口付近とし、各車体に1か所表示する（両側とも）。



名刺・封筒



Web



広報紙・チラシ等



【備考】車両や名刺・封筒等へのシンボルマーク表示及び表記はイメージであり、今後、詳細な検討を進める中で変更となる場合があります。

芳賀・宇都宮LRT事業
シンボルマーク運用基準(案)作成中
2020年6月現在

芳賀・宇都宮LRT事業 シンボルマーク運用基準について

本基準は、シンボルマークが持つコンセプトや役割などを確保しながら、シンボルマークを使用するにあたってのルール等について定めたものである。

なお、本基準に記載の無い内容については、芳賀町・宇都宮市において検討を行い、運用するものとする。

目次

芳賀・宇都宮LRT事業 シンボルマーク運用基準について	1
目次	2
シンボルマーク	3
シンボルカラー	4
サブカラー	4
シンボルマークの色彩再現基準	5
シンボルマークと事業名称の組み合わせ例	6
シンボルマークの保護領域	8
シンボルマーク単体の最小再現寸法	8
誤った使用例	9
背景が有彩色や写真の場合の展開(ポスターの例)	10

シンボルマーク

シンボルマークは、芳賀・宇都宮LRT事業における多岐にわたるアイテムに、統一かつ継続的に使用することで、本事業の象徴としてコンセプトを表現するために作られているものであることから、本事業が発信する全ての視覚要素に適切に掲出することを基本とする。

マークの掲出に当たっては、事業等を分かりやすく印象付けるため、事業名称、車両愛称等を表す文字列とマークの一体的な表記を基本とする。



「雷都を未来へ」の考え方を直接的に表現したデザイン

芳賀・宇都宮LRT事業のデザインコンセプトである「雷都を未来へ」そのものをモチーフに、その考え方である、まちの顔となる「独自性」や地域固有の風土を感じさせる「雷の光」、将来イメージを牽引する「先進性」を表現。車両のデザインとの親和性もあり、誰もが一目で芳賀・宇都宮LRTと分かる個性と情報伝達の機能を持たせている。

- ・ シンボルマークを再現する場合は、必ずマスターデータ(CD-R等により支給)から行ってください。

シンボルカラー

シンボルカラーは芳賀・宇都宮LRT事業のデザインコンセプトを表現するためのものであり、車両やサインなどに統一的に使用されている。シンボルマークのカラーは、単色による再現と、より上質な印象を与えることができるグラデーションによる再現の2種類とする。再現時は、素材や用紙に応じて、単色再現、グラデーション再現いずれかを選択し、色見本を遵守し、同一の色となるよう調整するものとする。



単色再現
特色:Pantone124C
四分解色:M32% Y100% K5%



グラデーション再現
M30% Y100% -M35% Y100% K10%
斜め-45°

サブカラー

サブカラーは、シンボルカラーを引き立てるために設定した色彩で、シンボルマークと組み合わせる文字情報や背景色として使用するものとする。再現時は、下記の色見本を遵守するものとし、印刷にあたっては、素材や用紙に応じて色見本と同一の色になるよう、調整するものとする。

シンボルマークと組み合わせる文字列
停留場サインなどの文字情報

Dark Gray



特色:Pantone Cool Gray 11C
四分解色:C8% K80%

White(背景が黒に近い場合)



四分解色:CMYK0%

シンボルマークの背景色

黒からグレイ、白までの無彩色(シルバーを含む)



目的に合わせて、黒から白の間のグレイ及びシルバーの使用が可能。
Dark Grayのように、スミに対して10%程度のわずかな青みを加えることは可能とするが、それ以外の色彩を加える場合は、慎重に検討するものとする。

シンボルマークの色彩再現基準

色彩の再現タイプは、カラータイプ、モノクロタイプ、素材色タイプとする。

(カラータイプ)

最も基本的なものとして、シンボルマークを掲示する様々なアイテムにおいて、カラータイプを優先的に使用するものとする。

(モノクロタイプ)

印刷色などの制限から、カラータイプの使用が困難な場合に、モノクロタイプを選択するものとする。

(金属素材色タイプ)

掲示素材の特性や掲示環境などにより、品質感や象徴性を高める必要がある場合に、使用できるものとする。

カラータイプ



基本再現



ネガ再現

WebやGUI、プロセスカラー印刷など、グラデーション再現が可能なアイテムに優先的に使用するものとする。

このうち、基本再現においては、背景色を白及び白に類する色彩、あるいは明るめのシルバーを基本とする。また、ネガ再現においては、背景色を黒やダークグレイの無彩色を基本とし、スミ50%よりも濃い(濃い)色彩を使用するものとする。

なお、マーキングシートや塗装、特色カラー印刷など、グラデーション再現が難しい場合は、単色再現を使用するものとする。(P.4参照のこと)

モノクロタイプ

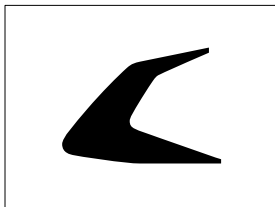


モノクロ基本再現



モノクロネガ再現

新聞などにおいて、カラーによる再現ができない場合は、網点などを用いるものとする。(グレイ40%)



モノクロ単色基本再現



モノクロ単色ネガ再現

カラーによる再現が難しく、網点などの使用もできない場合、あるいは金属などの素材を用いる場合に使用するものとする。

なお、任意の有彩色を用いた単色再現は、事業イメージを損なう恐れがあることから、これを避けるものとする。

金属素材色タイプ



真鍮、金メッキなど



ステンレス、アルミ、銀メッキなど

金属素材の仕様や表面処理を伴う場合の再現を想定するもので、目的に応じて、品質感や象徴性を高める必要がある場合(例:ピンバッジ、門扉等のサイン等)に使用するものとする。

※ この他、背景が有彩色や写真の場合の展開については、10ページを参照

シンボルマークと事業名称等との組み合わせ(案)

事業イメージを確保するため、事業名称等の文字列の書体と色、シンボルマークと文字列の組み合わせの大小比を変えず、そのまま使用することを基本とする。任意な組み合わせは、芳賀・宇都宮LRT事業のイメージを妨げる可能性があるため避けるものとする。

事業名称との組み合わせ ※この他、車両愛称が決定次第、記載

縦型

和文+欧文タイプ



芳賀・宇都宮LRT
Haga Utsunomiya LRT

欧文主体タイプ



Haga Utsunomiya LRT
芳賀・宇都宮LRT

欧文タイプ



Haga Utsunomiya LRT
Light Rail Transit

横型

和文+欧文タイプ



芳賀・宇都宮LRT
Haga Utsunomiya LRT

欧文主体タイプ



Haga Utsunomiya LRT
芳賀・宇都宮LRT

欧文タイプ



Haga Utsunomiya LRT
Light Rail Transit

背景色が黒に近い
無彩色の場合



ネガ再現において、背景色は、黒やダークグレーの無彩色を基本とし、スミ50%よりも濃い(濃い)色彩を使用するものとする。

※ 宇都宮ライトレール株式会社の名称との組み合わせ例については、別途調整。

【参考】指定書体

シンボルマークと組み合わせる文字列については、停留場などの文字情報と同じ書体を統一的に使用するものとする。

和文指定書体：ヒラギノ角ゴシックファミリー(UDの選択も可) / 字游工房 / モリサワパスポートフォント

ヒラギノ角ゴシック W3

あいうえおかきくけこアイウエオカキクケコ
天地玄黄宇宙洪荒日月盈昃辰宿列

ヒラギノ角ゴシック W4

あいうえおかきくけこアイウエオカキクケコ
天地玄黄宇宙洪荒日月盈昃辰宿列

ヒラギノ角ゴシック W5

あいうえおかきくけこアイウエオカキクケコ
天地玄黄宇宙洪荒日月盈昃辰宿列

ウェイト(太さ)は、視認性に合わせ適切なものを選択すること。

欧文指定書体：Allumi Family / Jean François Porchez / Adobe Creative Cloud Font

Allumi Light

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789

Allumi Regular

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789

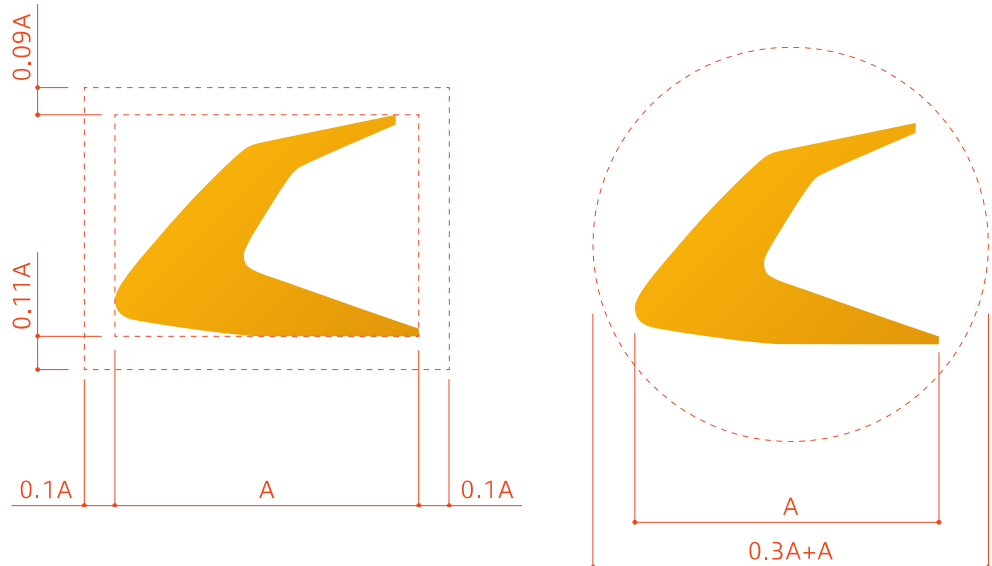
Allumi Demi

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789

ウェイト(太さ)は、視認性に合わせ適切なものを選択すること。

シンボルマークの保護領域

シンボルマークの独立性を維持するため、下記の領域に他の要素を配置しないものとする。



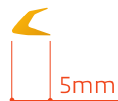
上記は、シンボルマークの配置環境が円形に切り抜かれている場合のみ適用（SNSのアイコン等）
その際、上記バランスのデータを使用するものとする。



シンボルマーク単体の最小再現寸法

シンボルマークの造形を正確に表現するため、最小再現寸法を次のとおり、定める。

また、縮小によってグラデーションの効果が薄れる場合は、ベタで再現するものとする。



誤った使用例

シンボルマークが表現する事業イメージを担保するため、次に例示するような誤った使用はシンボルマークなどの効果的な訴求を妨げるものであることから、使用しないこととする。



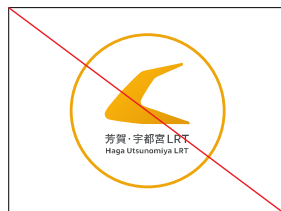
変形しない



左右反転しない



回転しない



任意の図形を組み合わせない



組み合わせの位置関係を変えない



任意の色を使用しない



組み合わせの大小比を変えない



縁取り表現をしない



保護領域内に他の要素を入れない

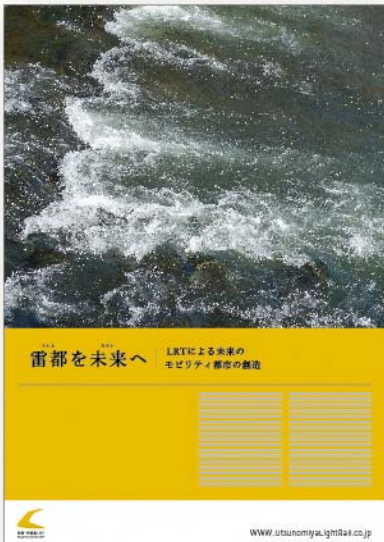


強い図柄の上に配置しない



スミ50%—15%の相当の明度(明るさ)となる背景色は避ける

背景が有彩色や写真の場合の展開(ポスターの例)



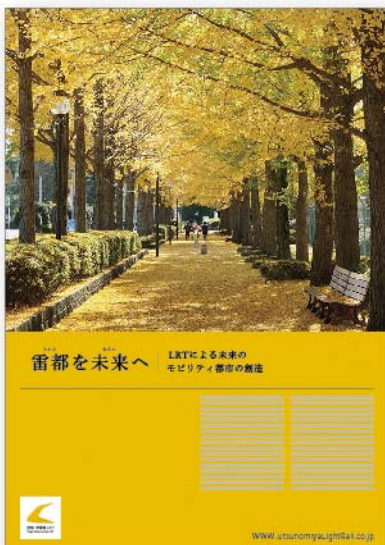
1. 背景が有彩色の場合

上部もしくは下部の白色面(三辺裁ち落とし)上に配置するものとする。

2. 背景が写真の場合

複雑な絵柄は避けて、シンボルマークと背景のコントラストが保てる箇所に配置するものとする。

(背景がスミ50%—15%相当の明度(明るさ)となる背景以外の箇所に配置)



3. 上記1.2の処理が不可能な場合

白い四角のベースに配置するものとする。

※ 四角のベースの縦横比・バランスについて検討中